

誰でも弾ける「街角ピアノ」



ニューヨークのイベントで設置されたピアノ（2010年、ルーク・ジェラム氏撮影）

国立で来春

国立市の街角に、誰でも弾けるピアノを設置するイベントが来春、開催される。「Play Me, I'm Yours（やあ、私を弾いて）」Kunitachi 2018」。アーティストがユニークなデザインに塗装したピアノを国立駅周辺などに置き、街角に楽しい旋律と人の輪を生み出す狙いだ。

駅周辺交流生み出す

このイベントは、イギリスのアーティスト、ルーク・ジェラム氏が2008年に始めた。人間関係が希薄になりがちな都市住民の間に温かい交流を生むとして注目され、ロンドンやパリなど50都市以上で開催されている。

公益財団法人「くにたち文化・スポーツ振興財団」がルーク氏側に打診し、来年の3月17～31日に開催することが決まった。国内での開催は初めてだ。

同財団は今月末まで、不用になったピアノを募集している。その後、デザインと塗装を担当するアーティスト

ストや市民グループなどを選び、ピアノの制作過程は一般公開する計画だ。

設置するのは、国立駅周辺のほか、市内の公園や商店街など10か所。すべてのピアノに「Play Me...」と誘い文句を明示し、自由に弾いてもらう。演奏風景などを投稿するサイトも開設する予定という。

同財団の担当者は「国立市でも、高齢者などの一人暮らしが増えており、人間関係は希薄になりがち。ピアノに気軽に触れて、見知らぬ人との交流を楽しんでほしい」と話している。

地元からの要望があれば、期間終了後もピアノを残す方針だ。

詳しくは、同財団が運営する、くにたち市民芸術小ホール（042・574・1515）へ。